

災害時に発生する外国人のうわさと 悪印象の関係

川野邊直央

災害時には多くのうわさが発生している。そのうわさの中には外国人がうわさの対象として語られることがある。それは、日本人の中に外国人への悪印象があることが理由なのではないかと考えた。

本研究では、関東大震災と東日本大震災で発生したうわさを対象として両災害において発生したうわさの事例を分類し、その類似点と相違点を明確にする、第二にうわさの発生要因として当時の社会的背景や報道の影響、外国人による犯罪を検討し、うわさが何を反映して発生したものなのかを分析する。

結果、社会的な悪印象と犯罪に関係しているといった偏見がうわさと結びついている。災害時はうわさが発生・拡散されやすくうわさの対象には、犯罪・暴力のイメージを持たれていてある程度の在留人数がいる国籍の外国人が選ばれやすい可能性がある。外国人のうわさは悪印象を持たせ、さらに恐怖・不安が増幅させる。それが新しいうわさの発生・拡散につながっていくということが示された。